



新館長挨拶

平成19年10月より、前任の高安克己副学長の後を受けて、ミュージアム館長に就任しました。

ミュージアム創設2年目の平成19年度は、11月に企画展示「学舎のお宝展」を開催し、島根大学が所蔵する様々な標本資料類などを一同に会して一般公開しました。幸い、1800名を超えるたくさんの学生・市民にご見学いただき、大変な好評を博すことができました。また、見学者からは、こうした展示を今後ともぜひ継続してほしいとの多くの要望を賜りました。

個性化・差別化が求められる昨今の国立大学にとって、大学ミュージアムがもつ役割と可能性は大きなものがあると確信しています。まだ手探り状態ではありますが、「学ぼう！活かそう！伝えよう！しまだいのDNA」をキャッチフレーズにミュージアム活動のさらなる展開を考えております。皆様のご指導・ご教示を乞う次第です。

松 野 焯（島根大学ミュージアム館長）

紹介・島根大学の野外資料 国登録有形文化財「島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高等学校外国人宿舎）」



現在の外観



© M. St. Goar & H. Wakamatsu

戦前の外観

【戦前の宿舎写真提供：東京医科歯科大学大学院 若松秀俊教授】

●場 所／島根県松江市奥谷町140

●時 代／1924（大正13）年11月竣工

●解 説／島根大学の前身校・旧制松江高校の外国人教師向けに築造された木造2階建て洋風建築官舎。旧制松江高校に関する最後に残された建物です。

屋根は、かつては瓦葺きでした。内部は多くが改装されていますが、階段や一部の部屋の天井・壁は、築造当初の漆喰塗りを留めています。ここには、著作権の父・ウィルヘルム・プラーゲ博士、「長崎の鐘」著者の永井隆らを育てた哲学者・フリッツ・カルシュ博士らが暮らしました。

2007年5月には、こうした歴史的価値が認められて、国登録有形文化財に登録されました。

現在、島根大学は、この建物を恒久的に保存し、ミュージアム、サテライト教室、市民・観光客が集う交流の場などに活用していくことを計画しています。



旧奥谷宿舎の周辺も見所いっぱい。歩いてまわれば、まさにフィールドミュージアムです。



松江市石橋町の醤油屋界隈



千手院から見た松江市石橋町の眺め



芥川龍之介も訪れた臨済宗の古刹・萬寿寺
(松江市奥谷町)



松江市指定文化財・田原神社随神門
(松江市奥谷町)
小林如泥(1753~1813)作の見事な彫物があります。

企画展示「学舎のお宝展～学ぼう！活かそう！伝えよう！島根大学コレクション～」を終えて

展示の目的・企画

島根大学は、明治8年「小学教員伝習所」、大正9年「松江高等学校」、大正10年「県立益田農林学校」、昭和50年「島根医科大学」などの流れをくむ総合大学です。こうした永い歴史のなかで収集されてきた、様々な標本資料類は、高い学術価値をもつとともに、本学の地域に根ざした教育・研究活動の歴史を視覚的に示す証人でもあります。

本企画展示では、明治時代以来、本学が、永年の教育・研究活動の過程で収集してきた、これらの標本資料類を一堂に会して学内外の方々に公開し、本学の学問やその伝統に対して理解を深めてもらうことを目的としました。さらには、これを通して、本学や地域の自然・文化に対する誇り・愛着が醸成されることを期待しました。

会期は平成19年11月5日(月)～11月30日(金)、土日祝日も開館、開館時間は午前9:00～午後4:30。会場は、島根大学汽水域研究センターの島根大学山陰地域・汽水域資料展示室(島根大学総合研究棟1階)をお借りしました。入場無料。会期中は、学生による展示解説ボランティアが2名常駐し、展示解説・案内などをおこないました。

展示資料の概要

総合大学である島根大学が所蔵するコレクションは、多様な学問分野にわたるため、大きく以下の9分野に整理して、展示配置しました。展示資料は約600点以上になりました。

- 動物(明治時代のチョウザメ、絶滅したオキウマ・ニホンアシカ、医学部収集寄生虫標本ほか)
- 昆虫(生物資源科学部収集の地域に根ざした世界的昆虫標本)
- 植物・藻類(演習林など収集のさく葉標本ほか)
- 化石(故中山勝博先生のお名前がつけられた類人猿化石、島大生が制作したパレオパラドキシアほか)
- 鉱物・岩石(南極の石、総合理工学部収集の鉱物、島大生が発見した鉱物ほか)
- 考古資料(法文学部が発掘した考古資料、キャンパスから出土した土器・木器ほか)
- 記録史料(松江城下町絵図<堀尾期>、シーボルトや小泉八雲直筆賞状・書簡、大森文庫ほか)
- 技術史関連資料(世界のカンナ)
- 旧制松江高等学校・旧奥谷宿舎(外国人宿舎)に関する資料(当時の写真・公文書ほか)

展示の様子



遅くまで展示準備におられる学生・スタッフ（10/31）



留学生も見学に来ました（11/5）



「松江城下町絵図〈堀尾期〉」を見学される松江市長（11/9）



熱心に見学する大社高校生徒の皆さん（11/15）

成果と反省点

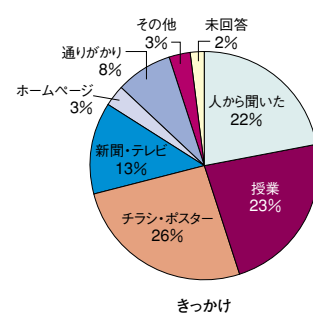
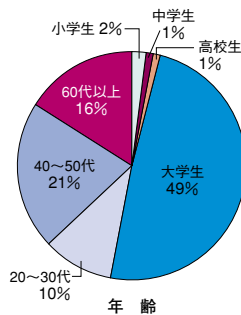
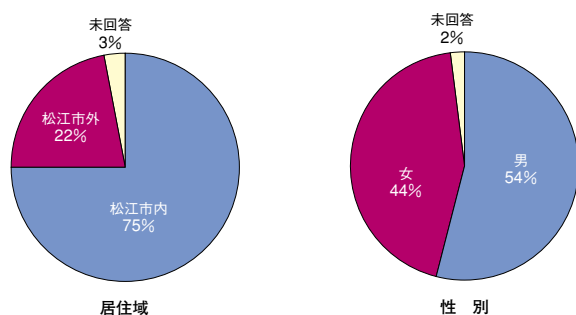
見学者数は、のべ1,825名を数えました。このうち、見学者分析のための展示アンケートに回答していただいたのは、のべ362名でした。

アンケート結果をみると、見学者の居住域は、松江市内273名（75%）／松江市外79名（22%）と、市内が多いものの市外からも比較的足を運んでいただいたことが分かります。

性別は、男性195名（54%）／女性161名（44%）とほぼ半々、年齢層は、小学生7名（2%）／中学生2名（1%）／高校生5名（1%）／大学生177名（49%）／社会人で20～30代36名（10%）／40～50代74名（21%）／60代以上56名（16%）でした。学内の大学生が半数を占めたのは当然ですが、地域の多くの方々にも見学していただいたことは満足できる結果でした。これに対し、小中学生の見学者は、課外活動の一環としての団体見学はありましたが、個人の自発的な見学が少なく、今後の課題となりました。

展示会を知ったきっかけ（複数回答可）は、人から聞いた（クチコミ）86名（22%）、大学の授業で聞いた89名（23%）、チラシ・ポスターで知った99名（26%）、新聞・テレビ（マスコミ）で知った52名（13%）、ホームページで知った10名（3%）、通りがかり32名（8%）、その他13名（3%）でした。様々なメディアを通じて展示会の情報を得ていることが認められ、今後とも多様で複合的な手段による広報が必要であるといえます。また、偶然通りがかり入場した見学者もいたことから、今後可能であれば、より人通りの多い分かりやすい場所に展示会場を選定することが望ましいといえます。

見学者からは、「島根大学にこんなにたくさんのご覧の資料があるとは知らなかった。」「お宝は眠っている意味がないので今後もこうして公開してほしい。」「展示室がもっと広ければよかった。」「入口がわかりにくかった。」など、今後の期待や課題について様々なご意見・感想をいただきました。島根大学ミュージアムとしては、こうしたご意見を真摯に受けとめ、今後学内に一定規模の常設的展示室を何とか確保して、より充実した展示活動を展開していけると構想しています。



平成19年度の主な活動報告

平成19年4月12日	『島根大学コレクション2007』配布。
5月10日	キルギス国の留学生がミュージアム本館展示室見学。
6月2日	島根大学総合理工学部の授業でミュージアム本館展示室見学。
6月8日	第1回「島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高校外国人宿舎）の保存活用を考えるワークショップ」開催。
6月13日	米国・中国・韓国・インドネシアの留学生がミュージアム本館展示室見学。
6月16日	「出雲国まほろばガイドの会」30名がツアー見学。
6月24日	「嵩見団地」有志の皆さんがミュージアム本館展示室見学。
6月27日	授業の一環で留学生と城下町の町並み散策。
7月3～4日	国立大学法人等事務系職員就職候補者の皆さんが大学訪問でミュージアム本館展示室見学。
7月23日	松江市内高校の受験生がツアー見学。
7月26日	附属小学校の児童・保護者18名がツアー見学。
7月31日	附属小学校の児童・保護者35名がツアー見学。
8月4～5日	「夏休み・子どもミュージアム体験教室」開催。
8月6日～9月6日	島根大学総合研究棟改修に伴う島根大学構内遺跡発掘調査実施。
8月11日	島根大学教育支援センター主催「島大ビビットひろば」の一環で91名の児童がミュージアム本館展示室見学。
8月24日	親子でめぐる「夏休み・しまだい探検2007」開催。
8月31日	松江養護学校の生徒がミュージアム本館展示室見学。
9月26日	第2回「島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高校外国人宿舎）の保存活用を考えるワークショップ」開催。
10月6日	ホームカミングデーでキャンパスツアー実施。
10月6～8日	大学祭で125名がミュージアム本館展示室見学。
10月12日～2月1日	特別講義「島大ミュージアム学」開講。
10月13日	放送大学「大学間交流講座～島根大学に遊ぶ～」で受講生がツアー見学。
11月2日	「学舎のお宝展」内覧会開催。
11月5～30日	企画展示「学舎のお宝展」開催。
11月7日	鳥取県立米子西高等学校PTA40名が「学舎のお宝展」見学。
11月9日	「島大ミュージアム学」受講生約250名が「学舎のお宝展」見学。
11月9日	松江市長が「学舎のお宝展」見学。
11月10・17日	公開講座「島根まるごとミュージアム体験ツアー」実施。
11月14日	倉吉東高校PTA18名が「学舎のお宝展」見学。
11月15日	大社高校の生徒49名が「学舎のお宝展」見学。
11月18日	斐川西中学校・科学クラブの生徒・先生8名がツアー見学。
11月19日	大社コミュニティセンター18名がツアー見学。
11月19日	故中山勝博島根大学助教授のお名前が付けられた新発見・類人猿化石を特別展示。
12月22日	「冬休み・子どもミュージアム体験教室」開催。
平成20年1月14日	携帯版ホームページ開設。
1月21～25日	島根大学出雲キャンパス試掘調査実施。
2月26日	國學院大學文学部の学生・先生30名がツアー見学。
3月22日	「春休み・子どもミュージアム体験教室」開催（予定）。



島根大学構内遺跡発掘調査
(8/8)



「夏休み・子どもミュージアム体験教室」で化石クリーニング(8/5)



「冬休み・子どもミュージアム体験教室」で人工雪作り(12/22)

■ 発行日 2008年3月5日

■ 編集・発行 島根大学ミュージアム Shimane University Museum

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 TEL/FAX 0852-32-6496

ホームページ <http://museum.shimane-u.ac.jp/> E-mail: museum@riko.shimane-u.ac.jp

